

藤原岳の初冠雪。朝、正門の前で立っているが、防寒着を羽織って来る子が増えてきた。毛糸の帽子をかぶったり、手袋をはめている子も見かける▼鳥坂を登り切って、正門で一息入れる子が数人いる。正門で止まらず、昇降口に直行してもらいたいと思っているが、その子たちと話をするのもたのしいものだ▼今日は、1年生のレギュラーメンバー2人の子と話をしていた。「今日は、寒かったよ」「お山のてっぺんが真っ白だった」「初冠雪って言うんだよ」「おばあちゃんが、山に3回雪が降ると、積もるんだよと言ってた」▼「雪が降ったら、雪だるまを作ろう。そうだ校長先生を作ろう」わたしの雪像を作ってくれるようだ。「寒いから服も着せてね」「服着せたら、あつくてとけちゃうよ」「マッチすって近づけたら、すぐにとけちゃうね」。1年生の女の子がマッチを知っていることがうれしいので聞いてみると、「マッチは、ばあばの家にはいっぱいあるよ」▼たわいもない会話の中に、子どもの日常生活が垣間見えたりすることがある。まわりの大人から、いろんな話を聞かせてもらったり、教えてもらったり・・・そんな素敵な時間がいっぱいあるといい▼「親の言葉となすびの花は、万に一つの無駄がない」と母親によく言われた。大人になってから、万ではなく、千。無駄ではなく仇ということを知った。父親には、おまえは聞かん坊とよく言われた。